

ほやほや

Fukui Red Cross Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol. 037

平成24年1月発行



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

福井赤十字病院

| 新年のご挨拶

| 検査部&母乳外来
リニューアル

| 麻酔ってどんなもの?

| 放射線治療

| 防災訓練開催

| 第47回日本赤十字社医学会総会開催

| クリスマスイベント開催

| 冬のレシピ



2012年 新年のご挨拶

地域とともに、い 体と心に優し 医療を目指します。

新年明けましておめでとうござります。

昨年は東日本大震災をはじめ台風水害など、災害の多い年でした。年頭にあたり改めて、被災地の一日も早い復興を願うとともに、今年は災害のない穏やかな年となりますよう祈念したいと思います。



院長 野口 正人

当院は昨年、福井市のフエニックス・プラザ、福井市体育館で日本赤十字社医学会総会を開催いたしました。「災害救護」と「健康長寿」医療を充実するといたしました。「災害救護」というダブルスローガンを掲げた学会でしたので、日赤医学会としては過去最大の規模となりました。学会最終のプログラム「市民公開講座：人間を救うのは人間だ—東日本・ハイチ大震災での赤十字災害救護活動—」には、多くの地域の皆様方に参加していただき、ありがとうございました。

診を行います。災害が発生すれば、被災者の医療救護にまた被災地の救援に駆けつけます。「人道と博愛の精神のもと、県民の求める優れた医療を行います」という理念を達成するためには、病院の職員は自ら行動していく必要があります。当院の医療連携のスローガン「結ぶきずな、地域とともに」は今年も変わりません。

地域の皆様と共に、豊かで健全な福井を作つて行きましょう。今、「社会保障と税の一括化」が行われようとしています。この医学会で得られた成果を念頭に、赤十字の明日を育てるため、今年から「病院の理念と基本方針」を新たにしました。今後も地域の皆様に優れた高度な専門医療を提供し、地域社会に貢献していきたいと思いまます。地域の健康寿命を延ばす医療を行い、病気を予防する健診を行います。災害が発生すれば、被災者の医療救護にまた被災地の救援に駆けつけます。「人道と博愛の精神のもと、県民の求める優れた医療を行います」という理念を達成するためには、病院の職員は自ら行動していく必要があります。当院の医療連携のスローガン「結ぶきずな、地域とともに」は今年も変わりません。

地域の皆様と共に、豊かで健全な福井を作つて行きましょう。今、「社会保障と税の一括化」が行われようとしています。この医学会で得られた成果を念頭に、赤十字の明日を育てるため、今年から「病院の理念と基本方針」を新たにしました。今後も地域の皆様に優れた高

度な専門医療を提供し、地域社会を築けるよう改革が進んで行くよう願っています。当院は、地域が求める医療は「体と心に優しい医療」と考えています。地域の健康寿命を延ばす医療を行い、病気を予防する健診を行います。災害が発生すれば、被災者の医療救護にまた被災地の救援に駆けつけます。「人道と博愛の精神のもと、県民の求める優れた医療を行います」という理念を達成するためには、病院の職員は自ら行動していく必要があります。当院の医療連携のスローガン「結ぶきずな、地域とともに」は今年も変わりません。

地域の皆様と共に、豊かで健全な福井を作つて行きましょう。今、「社会保障と税の一括化」が行われようとしています。この医学会で得られた成果を念頭に、赤十字の明日を育てるため、今年から「病院の理念と基本方針」を新たにしました。今後も地域の皆様に優れた高

待ち時間を短縮！迅速で正確なデータの提供

2階の25番に位置する検査部が、昨年末リニューアルしました。新しく変わった点は次の3つです。

①採血台の増加 従来の4台（十臨時1台）から6台に増やし、待ち時間の短縮を実現します。さらに大型モニターの設置により待ち時間などの情報提供を行います。

②電動昇降採血台（車椅子対応）の設置 電動昇降台の導入により、様々の方の情報、アルコール綿・綿ぞうこう使用の可否など、採血情報を蓄積することができます。

その情報を確認する事により、採血受付時には採血部位を暖めるなど、採血に向けての準備がスムーズになります。また、採血時

には、採血が難しい方には、前回の採血部位などを確認でき、採血のさらなる安全性の向上を目指します。またこのシステムは待ち時間の表示など、採血待合の大型モニターにも情報表示を行い、病院全体の情報と併せて情報提供を行います。

大幅リニューアルにより患者さんの満足度を向上させ、さらに迅速で的確な検査結果の提示に努めています。

毎日実施！母乳外来「大きくなあれ」の案内



これまで火曜日と木曜日の週2回開設していた母乳外来が、利用者のご要望にお応えして、月曜日から金曜日まで、毎日開設することになりました。

今回のリニューアルを機に、より一層気軽に利用していただけるよう、親しみやすい名称をつけたいと思い、お母さま方等に名称を募集しました。その結果、『大きくなあれ』に決まりました。この名称には、「母乳を飲んですくすくと健やかに大きくなつてほしい

という願いが込められています。場所については、今まで産婦人科外来のスペースを使用していましたが、利用していただくなりました。お母様お一人おひとりと個室でゆつくり対応することができます。本館4階のデイルームの一角に個室を設けました。

楽しく安心して母乳育児ができるよう支援させていただきま

るため、元気で、健康で、安心できるとした。年頭にあたり改めて、被災地の一日も早い復興を願うとともに、今年は災害のない穏やかな年となりますよう祈念したいと思います。

県内病院では初導入です。患者さんの採血履歴や採血が難しい方の情報、アルコール綿・綿ぞうこう使用の可否など、採血情報を蓄積することができます。

その情報を確認する事により、採血受付時には採血部位を暖めるなど、採血に向けての準備がスムーズになります。また、採血時

母乳
外来

リニューアル
しました!!

検査部



ご利用のご案内

毎週月曜～金曜日 13:00～16:45
(最終受付16:00)

完全予約制です。ただし、乳房トラブル時は随時受け付けております。また担当助産師は日によって異なります。担当助産師がお知りになりたい場合は問い合わせください。

予約・問い合わせ先／0776-36-3630
2-4病棟(内線2430)

◇料金改定について
初診:3,500円(他院で出産された方の初診)
再診:2,500円(当院で出産した方は1回目のみ1,000円)
時間外:5,000円

麻醉ってどんなもの？ 痛みや危険から体を守ります



治療を安全かつスムーズにすすめるためのサポートを
麻醉科医が行っています。

麻醉科部長 田邊 毅



当院の麻酔科では、7名の麻酔科医が手術の際の麻酔管理を行っています。じめ、患者さんの痛みを治療する疼痛管理（ペインクリニック）、ICUでの術後管理・治療を行っています。

麻酔の目的としては①無痛②鎮静③無動化④危険な反射を抑えるという4つがあり、全身麻酔は基本的にこの条件を満たしています。

全身麻酔を行う手術の際は麻酔の管理に加え、患者さんの呼吸や心拍数、血圧などの全身管理を行なうのも麻酔科医の仕事です。

麻酔が必要な手術が予定されると、まず担当医から異常所見や合併症がないかなど、患者さんの情報が麻酔科医に届けられます。その後、手術1週間前に出される「手術予定表」とカルテを参考にしながら、麻酔の使用に問題がないかどうかを詳しく検討します。さらに、手術前日には担当する麻酔科医が患者さんと直接お会いして診察や説明をする「術前診察」をします。この診察では、患者さんからの不安や疑問にできる限り丁寧に答える、麻酔について理解してもらえるよう努めています。

時間体制で、患者はストレッチャーにのって手術室へ向かうことが大半でしたが、今は患者さん自身に歩いて入室します。手術に対するストレスや不安感を少しでも和らげて実践しています。そして当院の麻酔科の大きな役割として、24時間体制で、患者はとにかく自分が大半でした。しかしでも和らげるように様々な工夫をこらし、実践しています。



このほか、近年増えた「鏡視下手術」など、患者さんへの負担が少ない新しい手術法にも麻酔科として細心の注意を払いながら的確に対応しています。

手術時の麻酔に関する疑問や不安などがある時は、麻酔科医に気軽にご相談ください。

患者さんの管理、治療にあたります。

各科の医師がそれぞれ担当患者を管理する一般的なICU体制とは異なり、当院では麻酔科医が交換で全身管理をしながら術後の患者さんの苦痛を和らげ、回復を早めるため、きめ細やかな治療にあたっています。

特集2 がん患者さんの体への負担が少ない 安全・確実な放射線治療を行つています

がんの治療法について

3つの治療法を組み合わせる、集学的治療が行われています。

こうした3つの治療法の中でも今回

がんに対する治療法として様々なアプローチが考えられる今、当院でも各科の医師が連携し合いながら、患者さんに負担の少ないがん治療を選択し、提案させていただいている。

がん治療には外科療法（手術）・薬物療法（抗がん剤）・放射線治療と大きく分けて3つの治療法があります。これらのうち、外科療法と放射線治療は病巣がある部分を直接治療することができます。しかしがんといふ病気は、早期にはある部位に限定している局所の病巣が、次第に全身に広がって（転移）いくという困った性質を持っています。こうした全身のがんを広く治療するためには、全身的治療である化学療法が有効になってしまいます。

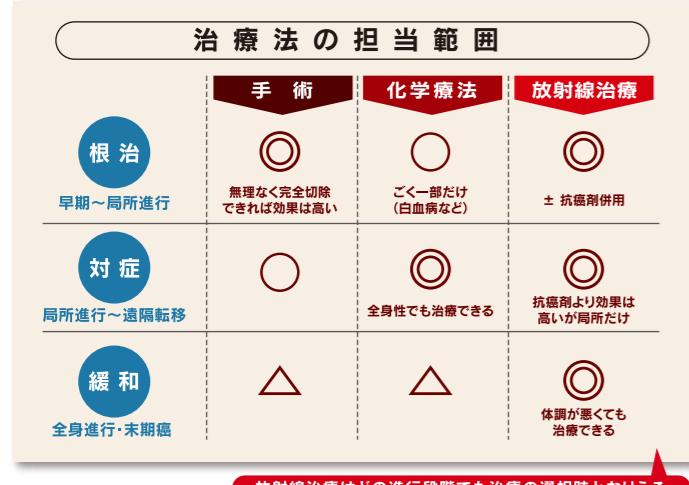
これまでがん治療というと外科療法が一般的でしたが、最近は患者さんの体力やがんの進行具合に合わせて上記法が一般的でしたが、最近は患者さんの体力やがんの進行具合に合わせて上記法が一般的でした。これが一般的でした。これまでがん治療というと外科療法が一般的でした。



放射線治療のメリット

放射線治療とは、X（エックス）線やγ（ガンマ）線、電子線といった放射線を照射することでがん細胞の増殖を抑える治療法で、外科療法（手術）と同じようにがんの主要な局所療法のひとつです。

がんには細胞にしみだすように広がり、離れた所へも飛び火する（浸潤と転移）という特徴があり、がんを取り除くには、周囲の、ある程度の「のりしろ」を含めて治療する必要があります。がんとその周囲を手術によって切り取ることが一番確実な治療法なのですが、手術では取り除けないような場所に病巣がある場合や、重要な臓器（血管、神経を巻き込んでがんが広がっている場合など）、外科療法では治療が難しいケースもあります。また、舌がんや喉頭がんなど、取り取ることでその後の生活が不便になってしまふ部位のがんもあります。このように、外科療法では解決が難しい患部の治療を行えるのも、放射線治療の特徴です。



また、がんは治療せざるままにしておくと早期がんであつたものも局所進行や遠隔転移をおこし、全身に広がっていく病気です。がんの進行に合わせ、早期～局所進行期は「根治」、局所進行～遠隔転移期は「対症」、全身進行期～末期は「緩和」と、治療で目指すべき方向性も変わってきます。放射線治療は他の治療法に比べ、早期から末期まで継続して治療を行える治療法と言えます。

次回は実際の放射線治療の種類や方法について、また、皆さん気が気になる副作用について紹介します。ぜひ次号をご覧ください。

大規模地震を想定した防災訓練を開催

昨年11月15日、当院において防災訓練が行われました。福井市北部を震源とするマグニチュード(M)8の大地震を想定した多数傷病者受け入れ訓練で、各スタッフに課せられた任務の周知徹底と防災意識の高揚を図ることが目的でした。

大地震による被害の想定は、市内至るところでの家屋などの倒壊や道路の損傷、建物の火災、電気水道などのライフラインの停止、さらに多くの死傷者発生など、先の東日本大震災の被災を思わせる状況でした。

地震発生後、まずは正面玄関前に

災害対策本部を設置。その後、スタッフは治療の優先順位を決める「トリアージ」を行ったり、市消防局員と当院の災害派遣チームD-MATが出動したり、さらに交通事故で負傷した人の救護活動など、様々な訓練が行われました。

災害はいつ、どこで発生するか分からぬものです。だからこそ普段からの訓練と心構えが大切になってきます。当院では今回の訓練を受け、改めて防災マニュアルを見直すとともに、万全の体制を整えていきます。



総括から指示をうけるスタッフ



消防から搬送された患者さん



トリアージ



搬送された患者さんをトリアージ(選別)する



事故現場で医療を行うD-MATスタッフ

クリスマスイベントが行われ、やさしく穏やかな雰囲気に包まれました



去る12月16日(金)、仁愛女子高等学校コーラス部の皆さんによる「コンサート」が開催されました。

若さあふれる歌声とリズムに乗つたハンドベルが響き渡り、患者さんが一緒に歌を口ずさんだりする様子も見られました。ハンドベルと歌声の音色でエントランスホール全体が一体となり、楽しいコンサートになりました。

また12月22日(木)には、毎年恒例の「キャンドルサービス」も行われました。看護師を中心に約210名のスタッフが3班に分かれ全病棟を巡回。「きよしこの夜」「もろんこぞり」「神よ人々を苦より救いたまへ」の合唱とともに、ろうそくの灯りが一つ一つと連なり、あたりは幻想的な雰囲気に包み込まれました。

患者さんの「感動しました(29歳女性)」などの声をはじめ、病室から笑顔で手を振る姿が見られるなど、短い時間ではありましたが、皆さんのが一つとなつた穏やかで優しいひと時でした。



第47回日本赤十字社医学会総会を開催

10月20～21日、福井フェニックスプラザと福井市体育館にて、第47回日本赤十字社医学会総会を開催しました。中部地域の赤十字病院がお世話を務めたり、福井赤十字病院が担当となり、福井赤十字病院がお世話を務めました。会期中は天候に恵まれ、約1300名の日赤医療人が参加、シンポジウムを含め680以上の演題が発表され活発な討論が行われました。

学会最後に行われた市民公開講座「東日本・ハイチ大震災での赤十字救護活動」は、福井市民の方や仁愛女子高等学校の学生さん、そして、赤十字奉仕団の皆さんなど、約700人の方のご参加を賜り、赤十字の救護活動に共感し、救護活動に対する理解を深めたものとなりました。



D-MAT出動

栄養課
おすすめ!

冬のレシピ <鱈の粕汁>

作り方

- ①鍋に水を3カップ(600ml)と味パック1袋を入れ、4~5分間沸騰させる。味パックを軽くしぼって取り出す。
- ②真鱈は一口大に切る。大根、人参は一口大の乱切りにする。こんにゃくは一口大にちぎり、熱湯で茹がき水気をきる。小松菜は3cmの長さに切り、茎と葉を分ける。
- ③①に②の小松菜以外の具材を入れて煮立て、アクを取り除き、中火で柔らかくなるまで煮る。
- ④酒粕は③の煮汁で溶きのばし、③に加える。みそも溶き入れ、小松菜の葉を加え、一煮立ちさせて火を止める。
- ⑤椀に盛り、小口切りにしたねぎを散らす。



材料

●2人分

真鱈	1切れ
大根	100g
人参	60g
こんにゃく	1/2枚
小松菜	1/3束
ねぎ	適宜
酒粕	20g
みそ	大さじ1
味パックかつおだし	1袋

エネルギー

●1人分

エネルギー	108kcal
たんぱく質	13.2g
脂質	1.0g
炭水化物	11.3g
カルシウム	170mg
ビタミンD	0.7μg
塩分	1.2g

栄養ポイントはココ!

鱈は12~1月に旬を迎え、冬の味覚の筆頭にあげられます。淡白な味で生臭さがなく、低脂肪、低カロリーであり、ビタミンDを含み、カルシウムを比較的多く含んでいるのが特徴です。大根や小松菜などの旬野菜もたくさん入れ、ビタミン類をしっかりと摂りましょう。粕汁は酒粕の効果で体がぽかぽかと温まる冬の人気料理です。

今回の表紙

今月の表紙を飾った臨床検査技師の見谷敦司さんが勤務しているのは、本紙でもご紹介した検査部です。見谷さんは現在、血液担当で、主に採血や貧血検査を行っています。また昨年は、震災の救護活動にも参加しました。「検査部は医療界の裏方ですが、治療などには不可欠な存在。縁の下の力持ちとして患者さんを支えたいです。採血時はもちろん、検査時も患者さんの顔を思い浮かべながら、正確で迅速なデータを提出していきます」

現在、血液に特化した資格取得に向けて勉強を始めています。



福井赤十字病院

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代)
FAX.0776-36-4133
E-mail
webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
<http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

"ほやほや"と納得できる情報、できたて"ほやほや"の情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。